

Athlete Interview

file 2

デフバドミントン 矢ヶ部 紋可

2025年11月開催の「東京2025デフリンピック」まで遂に1年をきる。
2度目のデフリンピック出場を目指す矢ヶ部選手。昨年12月のアジア太平洋ろう者競技大会では女子ダブルス、団体ともに優勝を果たす。
新たな環境でのぞむデフリンピックへの現在の想いをきいた。



バドミントンについて

バドミントンは小学校一年生の時に、ろう学校の先生がチームを作って、そこに誘われたのがきっかけで始めました。そこは週一回、みんなで楽しむような感じだったので、地域のクラブにも入りました。合わせて毎週3日練習がありましたが、もともと身体が丈夫ということではなく、小学一年生の時までは毎年肺炎にかかってしまうほど身体が弱かったです。しかし、バドミンントンの練習で走り込みなどが多かったので、少しずつ身体が強くなっていきました。

初めころは、試合に全く勝てず、あまり好きではありませんでしたが、親に練習に連れていかれていたもので、仕方なく通っていました。

バドミントンを強くなりたいと思ったのは、小学校6年生の時に、所属するクラブを変えたことがきっかけです。そのクラブに強い人がいて、その人のようにになりたいと思い、そこからバドミントンに対して真摯に向き合うようになりました。

そのころは、ろう学校のクラブと地域のクラブにいました。どちらも練習の時は補聴器を付けてやっていたのですが、練習中のアドバイスがろう学校では手話言語だったので100%わかるけれど、地域のクラブでは口の動きが読み取れずわからないときもありました。

デフリンピックとの出会い

デフリンピックは、所属していたクラブの指導者が日本代表に選ばれるような人で、デフリンピックにも参加していたので知っていました。

高校2年生の時、初めて日本代表としてマレーシアで行われたアジア大会に参加しました。

初めての国際大会で、とても緊張していたので思い通りのプレーができず、全敗してしまいました。

前回の2022年のブラジルのデフリンピックでは、女子ダブルスは4位という結果だったので、東京2025デフリンピックでは優勝という形でリベンジを果たしたいと思います。



環境が変わる

今年就職を機に、地元の福岡県を離れ、埼玉県で一人暮らしを始めました。今まではペアを組む妹と一緒に過ごし、練習をしていましたが、環境を一度替えたいと思い、福岡を離れました。

現在は、オンラインでお互いの動画を送り合って、「ここを直してほしい」というやり取りをしています。

ずっと一緒にいるとお互いの成長がわかりにくかったのですが、今、月に一度の合宿で会うとお互いが強くなっているのがわかるようになりました。また、普段話すことがない分、会った時の会話も増えて前よりも仲良くなったように感じます。



一人暮らしをして、ごはんの用意や洗濯、掃除をしてもらえることが当然じゃないんだと気付きました。今では実家に帰った時は何か手伝わないと、と感じるようになりました。

聴力について

感音性難聴でほとんど聞こえないです。聴力は 100dB くらいです。普段は手話でコミュニケーションをとっていますが、わからないときはアプリケーションを使っています。口の動きを読み取ることもありますが、読み取れているのは 60% くらいだと思うので、わからないことが多いです。

家族との会話は、口話（相手の口の動きを見て言葉を読みとること）と手話の両方

を使ってコミュニケーションをとっています。両親は聞こえるのですが、私が聞こえないことを知ってから、母が近くの手話の会に通い、手話を覚えたので、手話でコミュニケーションをとっています。小学生の時のバドミントンのクラブでは、通訳も母がしてくれていました。父も少し手話で話せるので、手話と口話でコミュニケーションをとっています。

聞こえない日常

聞こえないことで一番不安に感じることは、電車に乗っているときに急に止まったりすると音声のアナウンスが聞こえず、何が起きたかわからないので不安になります。また、スーパーのセルフレジではバーコードの読み取りが音で知らされるので、できているのかわかりにくいときがあります。

一人暮らしを始めた頃は、インターホンの音に気付かず、配送の人が帰ってしまうことが多くありましたが、インターホンに連動して光るランプを購入したのでそういったことはなくなりました。

また、最近補聴器を新しくしたのですが、Bluetooth を使って、スマートフォンなどに接続することができるようになっていたので、音楽がききやすくなってうれしかったです。同じように、オンラインの会議でも、今までのイヤホンでは聞こえなかった内容が、補聴器に直接つながることで会議の音声もきこえやすくなりました。

アスリートを育てた家族

母は礼儀正しい人でマナーなどには厳しくされました。ずる休みや仮病で休もうとするととても怒られたのを覚えています。いつも練習に来てくれていましたが、バドミントンのプレーについて、何か言われることはありませんでした。そのため、母に言われたことでイライラしてけんかするといったことはありませんでした。

父は、怒ることもなければほめられることもあまりありませんでした。ですが、試合があるときには、必ず見に来てくれました。

アスリートと仕事



昨年4月に株式会社ゼンリンデータコムにアスリート雇用として入社しました。朝の9時半から15時まで総務の仕事をしています。業務後、夕方から夜にかけて、自宅近くの体育館で同じ会社の長原選手とコーチと三人で練習をしています。たま

に、地域のサークルに参加して練習試合をしてもらうこともあります。

デフバドミントンの魅力



私のやっているダブルスでは、互いの声がきこえないので、試合中にぶつかることがよくあります。また、あらかじめ考えていた戦略通りに試合が運べなかった時にも、ペアとポジティブな声を掛け合い気持ちを切り替えています。なので、試合中のコミュニケーションはきこえる人よりもたくさんとっていると思うので、そこに注目してもらいたいです。

バドミントンは、観客と選手の距離が他の競技と比べて近いことが多いので、うちわなどをもって応援してもらえると伝わりやすいです。この応援は以前友人がやってくれていてとても見やすかったので嬉しかったのを覚えています。

影響を受けた人

ろう学校の時の金田先生にはとてもお世話になりました。その先生は試合の結果はそれほど重要とは考えず、とにかく本気を出して周りに感動を与えられたかということをお大切にしていました。試合に勝った

時でも、本気でやっていなければほめてもらえませんでした。逆に負けてしまった時でも一生懸命やっていたらほめてくれるそんな先生でした。その考え方は今でもとても大切にしています。

東京 2025 デフリンピックへの想い

日本での開催で、友人や家族が「応援に行くよ」と言ってくれているので、とてもうれしいですが、その分プレッシャーもあります。

勝ちにこだわりたいですが、勝つことよりも試合内容を大切にして、見に来てくれた人に感動を与えられるような試合をしたいと思っています。

Athlete2 矢ヶ部 紋可
生年月日 2002年3月10日
所属 ゼンリンデータコム株式会社
経歴

- 2022年 アジア太平洋デフユース
バドミントン選手権大会
女子シングルス 3位
- 2022年 第6回アジア太平洋
バドミントン選手権大会
女子ダブルス 2位
- 2022年 第24回夏季デフリンピック競技大会
女子ダブルス ベスト4位
混合団体戦 2位
- 2023年 第6回世界デフバドミントン選手権
女子ダブルス ベスト8
- 2024年 第10回アジア太平洋ろう者
バドミントン選手権大会
団体戦優勝
個人戦・女子シングルスベスト8
女子ダブルス優勝